

大石良雄（松口月城）

忠誠 併せ 見る 知謀の 人

快拳 当年 苦心 多し

青史 長く 伝う 元禄の 事

神州の 正気 君に 依って 新たなり

解説 赤穂浅野家の家老。赤穂事件で吉良邸討入りの首領とな

り名を知られた。浅野内匠頭が江戸城中で刃傷事件を起こし、切腹の処分を受けてから、家中をよく統制し過激な行為を抑えてまず城を幕府に引き渡した。この事件に対する大石の基本方針は一方的な処分によつて失われた浅野家の名譽の回復であり、吉良上野介に対する処分と長矩の弟大学による浅野家の再興によつてそれが果たされるとして幕府に嘆願したが、大学が広島

の浅野本家に御預けとなつて挫折した。この段階を経て大石は吉良殺害に方針を転ずる。そして元禄十四年十二月十四日、大石は浅野家遺臣を率いて吉良邸を襲い、上野介を殺してその首を泉岳寺の長矩の墓前に献じた。

解説 大石良雄は浅野家の家老。赤穂事件で吉良邸討入りの首領となり名を知られた。

語釈 ※忠誠Ⅱ まごころ。※知謀Ⅱ 知恵のある、優れたはかりごと。※青史Ⅱ 記録。歴史書。※神州Ⅱ 神の国。日本で自国の美称として用いた。

通釈 大石良雄は忠誠と知謀を備えた人である。吉良邸討入りの快拳は多くの苦心があった。この元禄の出来事は永く歴史に語られるであろう。この日本の正気はこの出来事によつて新たな

になった。